診断なら　２０２０夏号

－　目次　－

- ご挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 令和２年新春互礼会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 第９回定期総会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 奈良県立図書情報館「体験学習会＆無料経営相談会」実施報告 ・・・・・・・・・・ 5
- 「コラムの会」たより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ならまち糞虫館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 奈良まほろばソムリエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 奈良こけし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 各研究会活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
  - 企業内診断士会
  - ＥＤＩ研究会
  - 奈良活性化研究会
  - コラムの会
- 新入会員による自己紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
  - 伊佐嘉仁会員
  - 中村誠会員
- ８月～１２月行事予定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 編集後記

ご挨拶

副会長　渡辺　淳

ウィズコロナ時代の中小企業診断士

令和２年５月 25 日､新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が全国でようやく解除されました。令和２年４月７日、東京を含む７都道府県に対して発令後、４月 16 日に全国へと拡大された日本の歴史上初となる緊急事態宣言下の２か月は、これまでに経験したことのない未曾有の２か月となりました。住民の外出自粛、学校の休校、宿泊施設や商業施設等の休業、イベントなどの開催制限、テレワーク等在宅勤務の推奨など、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は、私たちの生活や働き方に大きな変化と制約をもたらすとともに、東京オリンピックの延期、工場停止による生産減少、百貨店等の売上減、企業の経営破綻増加など、経済にも極めて大きなダメージを与えました。

このような状況下、国は、全ての国民に一律 10 万円の給付を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて業績悪化を来している中小企業等に対し、新型コロナウイルス感染症特別貸付等の資金繰り支援、持続化給付金や家賃支援給付金等の給付金、ものづくり補助金や小規模事業者持続化補助金、IT 導入補助金、雇用調整助成金等の補助金・助成金など、様々な支援策を展開しています。都道府県や自治体もまた独自の支援策を打ち出しており、新型コロナウイルス感染症に関連する中小企業への支援策は多岐に亘っています。

一方で、中小企業がこれら様々な支援策を理解し、自ら使いこなすということは極めて難しいと推察します。実際に、どんな支援策があるのか、どの支援策を利用すれば良いのか、自社は対象になるのか、誰に相談すれば良いのか、申請はいつまでにどのような方法で行うのかなど、私のところにも多くの問い合わせが、中小企業だけではなく、支援機関や他士業の方からも寄せられています。

私は思います。今こそ、これまで以上に中小企業診断士が活躍すべき時であり、貢献すべき時であると。国や自治体の様々な支援策を、必要な企業が最適なタイミングで利活用できるように、ワンストップで迅速かつ丁寧に向き合いサポートすることは、中小企業診断士にしかできない、中小企業診断士こそが取り組むべきことであると、日々中小企業の皆様と関わる中で、痛切に思います。

これからの時代が、アフターコロナの時代になるのか、ウィズコロナの時代になるのか、現時点では私にはまだわかりません。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策として求められている新しい生活様式への対応などを通じて、企業や人々の価値観は大きく変化していくものと考えます。例えば、オンラインが生み出す新しい現実への対応、在宅勤務推進による職住融合、新たなフルーガル・イノベーションの重要性、密の回避とソーシャルディスタンスによる適疎の実現と分散型都市への移行など。中小企業はこれらのパラダイムシフトに対応していくことが求められますが、ここにもまた中小企業診断士の活躍のフィールドが多く出現すると確信しています。

国難とも言える非常に厳しい状況ですが、中小企業診断士として、これまで以上に中小企業の皆様のお役に立ち、少しでも早く社会が平穏を取り戻せるよう、前向きに進んで行こうではありませんか。

令和２年新春互礼会報告

担当理事　原田高峰

令和２年２月７日（金)、午後６時より奈良市高畑町にあるホテル「飛鳥荘」にて一般社団法人奈良県中小企業診断士会恒例の「新春互礼会」を開催いたしました。
この「診断なら２０２０夏号」を書く今にして思えば運よく開催できたなと実感しているところです。あとすこし遅ければ本年の開催はできなかったと思っています。
さて今年の参加者数は来賓の方８名と士会会員１０８名中４６名の方に参加をしていただき総勢５４名と会場であるホテル「飛鳥荘」２階の「白鳳の間」を埋め尽くす大盛会となりました。来賓は奈良県中小企業団体中央会専務理事の土井敏多氏、奈良県産業・雇用振興部産業振興総合センター所長の前野孝久氏、奈良県信用保証協会常務理事の近藤朗氏、公益財団法人奈良県地域産業振興センター事業化推進課課長補佐の松本規宏氏、日本政策金融公庫奈良支店支店長の篠田直喜氏おなじく奈良支店融資第二課長の古川晃秀氏、大阪府中小企業診断協会副理事長の小野知己氏、奈良新聞社の岡崎記者が参加していただきました。

森会長による開会の挨拶の後、今回は調査研究事業の発表がなかった関係ですぐに懇親会となり懇親会の冒頭で中央会の土井専務理事に来賓祝辞をしていただいきました。その後、日本政策金融公庫奈良支店の篠田支店長に乾杯のご発声をいただき和やかにうたげの宴に移り来賓と会員及び会員相互の懇親を深めていただきました。さらに懇親会の中ごろには新入会員５名の自己紹介と当診断士会の佐伯理事の司会でクイズを実施いたしました。全員に当たるように用意した多くの景品をクイズに高得点した人から順番に１点ずつ持ち帰ってもらうのですが、クイズが難しくて落胆の声が多い中でも高得点の方が歓声をあげる楽しい宴となりました。宴たけなわの中、午後８時少し前に中締めを大阪協会の小野知己副理事長にしていただき約２時間の「互礼会」を和やかな中無事終了いたしました。また翌日の奈良新聞に互礼会の様子を大きく掲載していただきよき PR になりました。互礼会は例年前年の１０月から日時・予算の決定、会場の確保、来賓・会員への案内などの準備を始めて１月下旬か２月上旬の開催となります。今のコロナ禍が収まり来年通常通り開催できることを念じながら年々会員の参加が増えて盛会に執り行えることと多くの会員皆様方のご参加を期待しています。

第９回 定時総会報告

担当理事　原田高峰

今年度の第９回定時総会は年初からの新型コロナウィルスの大流行（パンデミック）により異例の開催となりました。予定では近鉄奈良駅前の春日ホテルにて来賓の方々をお招きして総会並びに懇親会を盛大に執り行うつもりでしたが３密を避けクラスターにならないようにとのことで３月の理事会にて懇親会を取りやめて、会場を春日ホテルから当診断士会の入居する「きらっ都・奈良」の３階会議室に変更することを決めてその後の検討会で少人数、委任状参加の形式で開催することといたしました。６月５日（金曜日）の当日には６名の理事の参加と８４名の委任状による参加での開催となりました

総会開催にあたり、司会の堀越副会長から会員数１０７名のうち実参加人数６名と委任状参加人数８４名の参加報告があり定款の定めにより総会の成立が宣言されました。その後、森会長が議長となり議事進行いたしました。議事は議案書の順番通りに第一号議案１の令和元年度事業実施報告については昨年度実施した奈良県信用保証協会「なら専門家派遣事業」大和高田商工会議所「専門家派遣事業」、「大和高田創業塾」の企画・講師派遣、大和高田商工会議所「くらし産業メッセ２０１９」開催支援、奈良中央信用金庫「ちゅうしん地域中小企業助成金制度」の審査事業等について渡辺事務局長が熱く語られました。つづいて第一号議案２の令和元年度正味財産増減計算書および貸借対照表について渡辺事務局長より説明があり監査報告書についても説明され承認されました。続いて二号議案１の令和２年度事業計画（案）は森会長から今年度の会務運営内容、受託事業、主催事業、会員向け研修事業、調査研究事業等の説明がありました。第二号議案２の令和２年度収支予算（案）について渡辺事務局長より説明があり審議いたしました。最後に第三号議案役員改選（案）が提示され米田理事が退任され戸森宣昭氏が新任理事に推薦されました。その後途中休憩して理事会を開催して令和２年度当会の運営体制が決められ公表されました。以上を持ちまして第一号議案、第二号議案、第三号議案ともに全会一致で承認され総会は閉会しました。

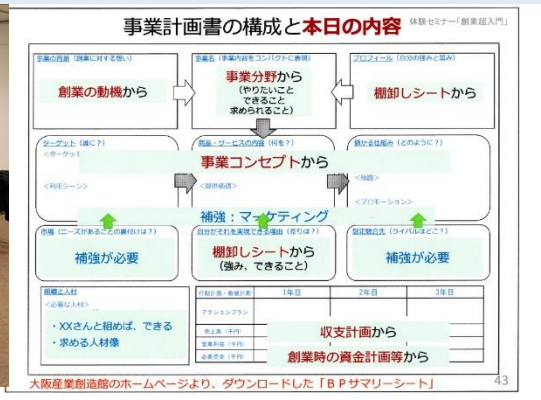
奈良県立図書情報館
「体験学習会＆無料経営相談会」
実施報告

会員　深谷　繁

前回（2020 年新春号）までの「診断なら」でご報告をいたしました通り、企業内診断士研究会では、2013 年度より奈良県立図書情報館様との共催で、「中小企業診断士による体験学習会＆無料経営相談会」を行っています。

初年度の 2013 年度は 3 回（3 日）、2014 年度は 2 回（2 日）、2015 年度から 2018 年度までは各 6 回（6 日）実施しました。昨年度（2019 年度）も 6 回（6 日）実施しましたが、このうち第 5 回目までは前号でご報告をいたしました。各日、経営相談会は午前 10 時 30 分から午後 4 時まで、体験学習会は午後 1 時から 4 時まで実施しています。

2019 年度の第 6 回目は 1 月 12 日（日）に行いました。経営相談会に 1 人お越しになりましたが、この方は体験学習会の方に参加されましたので、結局相談業務の対象になった方はありませんでした。体験学習会はこの方を含めて 4 名の方が受講に来られました。この日は、香川登志雄氏が『創業超入門』の題目で実施しました。事業計画の重要性と資金計画、収支計画づくりのポイント等を講師より説明し、受講者の皆様には、大阪産業創造館の BP サマリーシートを基に、体験（個人ワーク、グループワーク）を通じて、創業時の資金計画と収支見通しを作成し、創業に至る大まかな流れと、検討・準備すべき内容を理解して頂きました。



この日は、企業内診断士研究会のメンバーである上野浩二氏、香川登志雄氏、谷村幸治氏、長雅規氏、永山信男氏と深谷繁の 6 名が従事しました。

今年度は、例年通り 6 回のイベント（体験学習会と経営相談会）を予定していましたが、上半期の 3 回は新型コロナウイルスの感染防止のため中止しました。下半期の 3 回は 11 月、12 月、1 月に各 1 回を予定していますが、感染状況を踏まえつつ、図書情報館様と開催について検討中です。開催する場合、詳細が決まりましたら、図書情報館様のホームページやチラシによる広報手段や、奈良県中小企業診断士会のホームページなどでお知らせをする予定です。

「コラムの会」たより

会員　竹下 富彦

○　現在の活動

当診断士会のメルマガ、HP の新着情報でご存知かと思いますが、産経新聞朝刊の奈良版にコラム「経営と暮らしの羅針盤」を執筆しています。メンバー5 名の持ち回りです。また多くの方に書いていただきたいため、メルマガで会員の方々に執筆をお願いしたところ、3 名の方から手があがり参加していただいています。月１～２回のペースです。

しかし新型コロナウィルスの影響で、3 月末の掲載が最後で現在は休止中です。支局長様と電話で少し話す機会があったのですが、新聞社におけるコロナの影響は私が思っている以上に大きく、深刻さが伝わってきました。コロナの鎮静と掲載の再開を待ちます。

○　執筆の経緯

以前にも書き重複になりますが、新しい会員の方などに執筆の経緯を知っていただきたく簡単に述べます。平成 30 年の診断士会「調査・研究事業」で報告書を作成し、奈良の各新聞社に持参し内容を説明したところ、当時の産経新聞の支局長様が診断士の活動に大いに関心をもたれ、「コラムを書いてくれないか」の依頼がありました。そして平成 30 年 10 月から連載がスタートしました。産経新聞の奈良県での購買数は９万部ですので、多くの方々が読まれています。

○　次世代経営者育成研究会について

執筆メンバーの母体は「次世代経営者育成研究会」です。昨年は、奈良商工会議所青年部でのセミナーを行いました。現在は定期的な会合は持たず、必要な時のメールでのやりとりにしています。コラムの会も同様です。青年部へはアプローチ中ですが、現在はコロナの影響で足踏み状態です。

経営と暮らしの羅針盤

県中小企業診断士会

「理念」から今見つめ直す

行き詰まったとき

企業が経営理念、人がビジョンに向かって成長していくことには、重要な意味があります。そして理念にはもうひとつ強いオリジナリティー（独創性）があります。

理念を持つと、ビジョン・目的という将来の視点から現在を見直すことができます。これを少し難しい言葉ですが、「価値前提」の見方・考え方といいます。

2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）にも、バックキャスティング（backcasting）という未来から逆算して、今やるべき施策を考える発想があります。

「価値前提」の考えが大きな役割を果たした例があります。

かつて、アメリカで店頭に並んでいる鎮痛剤に毒物が混入され、犠牲者が出るという事件がありました。製薬会社は緊急の対応を迫られました。どのように、どこまで対応するのか、役員会は混乱しましたが、このとき、社長は企業理念に立ち返ってみました。

理念には「全ては顧客のために」ということが明記されており、会社はその趣旨に沿って、混入の恐れのある全ての商品を回収し、異物を混入できないようなパッケージに替えたのです。多額の費用と労力がかかりましたが、事件後この対応に消費者が感動し、同社への信頼感は以前にも増して高まりました。

普段、私たちは何も意識しなければ、「現在」から自身を取り巻く現実と将来を考えます。しかし、経営が行き詰まったときなどに理念・目的に立ち返れば、現状への対応策が見えることがあります。

現在に立って将来を考えることを「現実前提」の見方・考え方といいます。「価値前提」とどちらが正しいのかではなく、両方の考え方を知り、活用できることが大事です。

（中小企業診断士　竹下富彦）

ならまち糞虫館
フェイク・ニュース

会員　中村 圭一

糞虫が 1000 億円の損害賠償を求め奈良県を提訴!?

先日、奈良公園の糞虫たちが、自分たちの仕事に対する正当な報酬を支払うよう、奈良公園を管理する奈良県を相手取り 1000 億円の損害賠償請求の裁判を起こしました。訴状によると、糞虫たちの言い分はこうです。

①糞虫は毎日奈良公園のシカの糞を掃除している。そのおかげで、美しい芝生の緑が保たれ、観光客が奈良を訪れる大きな要因になっている。

②糞虫が糞を粉砕したり土に埋めたりすることで、ハエの発生が大幅に抑制され、疫病を未然に防ぐなど衛生管理に貢献している。

③奈良県は糞虫の存在を無視し、糞虫によってもたらされる有形無形の貢献を評価せず、対価を支払うことなく長い間搾取してきた。

・・・というもの。確かに、ウンコに埋もれた奈良公園には観光客は来ないので、糞をキレイに掃除してくれる糞虫はなくてはならない存在です。もし人の手で処理するとなると、糞を拾い集めるだけで年間 25 億円！ 処理場まで運ぶ運賃や焼却費、処理場建設まで考えればその倍はかかるでしょう。また、ハエが媒介して広まる病気は数知れず、牧畜の盛んなオーストラリアはこれまでに牛糞とハエの対策費として糞虫に何十億ドルもの予算を費やしています。こう考えると、今回の 1000 億円という請求額も法外な金額ではないような気がしてきませんか？

1000 億円なんて、我々は稼いだことも使ったこともない金額なので実感が伴わず、思考停止に陥ります。日本の財政状況や地球温暖化の問題について危機感を持てないでいるのと同じです。しかし、例えば過去 20 年以内の債権の累計額として考えると、

1000 億円＝収集費用 25 億円/年×処理費用２倍×20 年

＝(時給 850 円×8 時間/日×365 日×2 人/ha×500ha)×2×20 年

これなら、一つひとつの数字を検証できますよね。しかも、オーストラリアが実際に国家予算を糞虫に投じた事例まであるのですから、もう鬼に金棒です。

私は中小企業診断士として経営者とともに売上拡大計画や経費削減計画の目標を設定する時、こうして現実味を持たせ、納得の上で取り組んで頂きます。奈良県にもこの金額にご納得頂き、今後の糞虫保護に投じていただければと考えております。

まほろばソムリエ

会員　徳南 毅一

　私の診断士業務以外の活動状況を紹介いたします。
それは“奈良まほろばソムリエ”としての活動であります。
「奈良は、社寺の壮麗さはさておき、何の山・何の岡・何の河にも歴史あり、ロマン有り、人をして立ち去ること能はざらしむ　」と言われてきました。
奈良の歴史と文化を追求し、その良さを伝える。この楽しみは何物にも代えがたい私の生きがいとなっています。

　そのきっかけとなりましたのは、石川史雄支部長（当時）の呼びかけです。
私は、平成１８年から平成２３年まで連続して５年間、当会の調査研究事業に従事し、奈良経済の活性化のための提言を行ってきました。

　石川史雄氏は奈良には素晴らしい歴史文化がいっぱいあるが活用されていない。診断士はそれらをもっと知り訴えねばならない。“奈良まほろばソムリエ”という資格があるので、みんなでそれを取ろうじゃないかと提案されました。

　私も活動の中で、奈良は数々の文化・自然資産がありながら、必ずしも活かされていないことに気づいていましたので、調査事業でご一緒した橋本篤実さんと共に挑戦いたしました。

　“奈良まほろばソムリエ検定”とは、奈良商工会議所主催の奈良歴史文化及び自然等についての検定試験を通じて観光振興に寄与するとともに、奈良に精通した日本文化の伝道者の育成とホスピタリテイの向上を目指した事業です。
2 級、1 級を経て最上級の“奈良まほろばソムリエ”となります。ものごとを始めるのに遅すぎるということはないと信じ、70 歳でスタートしました。高齢の為、記憶力の減退で苦労しましたが、平成２６年に橋本さんと同時に合格しました。続いて岸克行さん（現理事）が合格されました。
他にも、まもなく合格されると思われる診断士もおられます。
合格された人たちの中で約 200 強の人がＮＰＯ法人奈良まほろばソムリエの会に入会し、ガイドや講演や執筆活動をされています。私は講演活動を行い、奈良のすばらしさを語っています。
橋本さんは、東京の奈良まほろば館で講演され、好評を得られています。（東京の多くの方は奈良に魅力を持たれています）私も多くのテーマを基に各所で講演活動をしています。
“奈良まほろばソムリエ”の中で診断士の有資格者は存在感があります。
ソムリエの人達の多くの活動は、ボランティア活動です。奈良の観光案内についてはボランティアに依存じていることが多いと思います。（奈良の観光に係る人達や、奈良の歴史文化に興味がある人達は、無償のボランティアを求めていることにもよります）
対して京都はどうでしょうか？京都では職業的な観光のプロ、即ち観光文化施設、食の集団、文化の集団、工芸の集団が京都観光に貢献しています。素人のボランティアに依存していては奈良にお金は落ちません。お金が落ちるには、観光活性化のプロの活躍が求められています。
“奈良まほろばソムリエ”には、診断助言のノウハウがありません。
私は中小企業診断士として“奈良まほろばソムリエ”として、観光のプロになりたいと思っていますがもう高齢ですので、仲間の中小企業診断士の皆様方にお願いいたしたく思っています。
そして、「診断士の中から多くの奈良まほろばソムリエが輩出し、奈良の活性化に貢献して欲しい」という８年前の７月に逝去された石川史雄様の御遺志が実現することを願っています。

奈良こけし

監事　坂本 昌弘

漆の教室で出会った人から「こけし」を作ったことがあるか聞かれた。その人は輸入した「マトリョウシカ」に絵付けをしており、「こけし」にも絵付けをしてみたいと云っていた。私はその時まで「こけし」を作ったことがなかったが、興味本位で作ってみようと思い木工ろくろを回した。

ところで、この「木工ろくろ」北海道の民芸店主にお願いして、別注して取り寄せたもので、夏のある日その民芸店に行き1日だけ、ろくろとノミの使い方を教わった。

その後、時々、暇を見つけて自宅裏の狭い空き地で独楽つくりを始め、世界中の独楽を作っているうちにオリジナルな「宝塔独楽（ほうとうこま）」を考案、平成15年に「第4回ならものデザイン展」で県地場産業理事長賞をいただいた。この年は私が診断士を開業した時で、時間的に余裕があったので「宝塔独楽」の意匠登録と商標登録を自分で登録手続きをした。

その後、宝塔独楽は妻が「津軽こぎん刺し」の個展の協賛グッズとして奈良県内の数か所、札幌丸井等で展示・即売した。

本業の関係で「宝塔独楽」以来約10年、「ろくろ」から離れており、第3の人生として考えていた民芸品づくりが、こけしの会話がきっかけとなり、「ろくろ」を回すことになった。

「こけし」に戻って続けよう。

「こけし」の形は「頭」と「胴体」だけのシンプルなもので、木を削れば簡単にできるだろうと思っていたが、一応「こけし」の何たるかについて調べてみた。「こけし」作りの本場である東北地方には有名な「鳴子温泉」のほか8～9箇所の産地がある。当然のことであるが、かたち(体形)や絵付け(顔・目・胴体の柄)にそれぞれの特徴がある。

「鳴子（なるこ）こけし」はこけし業界のみでなく一般的にも知名度は高いが、それを作るとなると簡単にいかない。「頭部」と「胴」の接続は胴か頭部のいずれかに穴をあけ片方には突起を作りそれをはめ込む方式になっている。はめ込んだ後、頭部を回すと「キュッ、キュッ」音がする仕組みになっている。この業界で一人前になるには、生地削り、絵付け等を師匠について数年間修行すると聞いていたとおり、かなりのテクニックがいりそう。

そんなわけで、「鳴子方式」はあきらめて、差し込み式でよりシンプルと思われる「遠刈田方式（とうがったほうしき）」のものを作ることにしてある日、作業にとりかかった。

材料はずっと以前に、奈良市の「頑固一徹長屋（がんこいってつながや）」で個展をしたときに木工工芸展でもらった端材を使って「頭」作りから開始。

「こけし」の頭は、殆どが「四角く丸い」絶妙にバランスの取れた形が特徴的で、これも作るとなると「四角く丸い」部分がやはり難しい。製作過程で「頭(顔)」が出来れば造形は8割方完成に近付いた感がある。形とか寸法の適当感は否めないがそれらしいものができ、「マトリョウシカ」の絵付師に受け取ってもらった。

余談になるが、この時点までに分かった「こけし」のルーツについて、かいつまんで紹介する。

「こけし」は東北地方にのみ発生した郷土玩具で、みちのくの純情可憐な「オボコ」の顔であり、姿であると言われている。こけしの造形者(形を作る人)は生地師と言われており、この生地師が「ろくろ」を発明したのは約1250年前と伝えられている。

自然発生的な「こけし」という呼び名が統一されたのは昭和初期といわれており、以前は産地ごと呼び名がまちまちであり大まかには次のような系統があった。

こげす系…こげす・こげし・こげすっこ
ぼこ系……おぼこ・きぼこ・ぼっこ
でこ系……でこ・きでこ

生地師は本来、鉢、椀(わん)、盆、茶筒等の生活必需品をメインに製作していたが、その傍ら、独楽、だるま、こけし、笛等の生地玩具も手がけていた。

生地師が扱う「こけし」の素材はミズキ・イタヤカエデ・エゴノキ・アオハダの他、椿・槐(えんじゅ)・山桜・梅等の広葉樹である。

長い間、温泉地のお土産用子供用玩具として親しまれていたが、大正初期、セルロイド・ブリキ等を素材とする新玩具の出現により、子供ではなく大人の置物として観光地の土産品になり手作りの素朴さが見直され、全国的に普及し、戦前には第1次「こけしブーム」になった。その後高度経済成長期には「第2次こけしブーム」となり、平成末期には「第3次こけしブーム」と言われたが、残念ながら「新型コロナ」の影響でブームに陰りが出てきた。

私の「こけし」作りは約3年前が始まりで「マトリョウシカ」の絵付師にたった1本作ったことがきっかけとなり、ほどなく試作品づくりにのり出した。こけし業界の常識から多少逸脱して素材に吉野産の桧(ひのき)を使うことにした。針葉樹の木目(もくめ)には、夏目と冬芽があるが広葉樹より柔らかさがある。木工ろくろで試行錯誤すること6ヶ月、頭と胴の一体型(業界用語では「つくり付け式」･･･津軽系・木地山系)のものができあがった。

「伝統こけし」の3要素は、材料・形・描彩(びょうさい)であり、多くは、師から弟子に引き継がれる世襲制になっている。私の場合、これらの3要素を無視した「こけし」で、師はなく独創的というより、自由奔放な創作「こけし」である。　「伝統こけし」の良さは形・描彩、特に眼の描き方でその「こけし」が生きもし、死にもする。つまり、「こけし」の生命は眼にあると言われている。このことは私の「奔放こけし」にも当てはまっている。伝統こけしの「眼」の形は12種類あり、どれかにしたいと挑戦したがどれもしっくりこないため、いくつかの顔写真から顔のレイアウトの黄金率を割り出し、眼を意識して顔を(数百回?)描いているうちに何となくしっくりした顔(眼)が出来上がった。描彩(絵付け)を先行して記述したが、その前段階として「どういうコンセプトに基づく「こけし」か」というと、世紀の大発見と言われた高松塚古墳壁画の美女群像は奈良の代表的な歴史遺産であるとの思いがあり、この「飛鳥美人」をテーマにした造形品の現在版が「ならこけし」であると位置づけすることにした。

「ならこけし」の特徴は頭部が鬘形式(かつらけいしき)で全体をカラー仕上げ,うち、上衣はチュニックワンピース様式・下衣は縦縞のプリーツスカート様式の壁画美女を描彩(びょうさい)している。そうすることで「伝統こけし」との差別化を図った。

「ならこけし」の完成を踏まえ、今度は世に問う機会を模索していたが、「奈良県アイデアくふう展」を見つけこれに出展したところ平成31年1月27日(この日は私の誕生日)に「奈良デザイン協会賞」をいただいた。「ならこけし(飛鳥美人)」は、同年4月から橿原神宮の東に位置する橿原観光ホテル売店の一画を拝借している。これを足掛かりとして商品のグレードアップと品揃えを行い、販売促進はどうすればよいか等、ビジネスモデルの実践をすることで奈良県の活性化に貢献しているような…夢を見た。

…先ずはここ迄　　インスタグラム…「＃ならこけし」

「ならこけし」出展品

新作

見返り美人(小野小町)」　　「卑弥呼」

各研究会活動状況

企業内診断士研究会	
活動内容	実務ポイントの獲得とメンバーのスキルアップを目的とした活動を行っている。2013 年度より、奈良県立図書情報館において「体験セミナー＆無料経営相談会」を開催。
会員数	１４名
開催頻度	今年度は図書情報館で下半期３日開催を検討中（上半期の３回は中止）
入会申込み先	深谷繁代表 fukaya@kcn.ne.jp

ＩＴＣ協会開発ツールを利用したＥＤＩ活用研究会	
活動内容	2020 年代前半、日本の受発注 システムに革命が起こる。その起爆剤として注目を集める のが、EDI（電子データ交換） の新仕様「中小企業共通 EDI」 だ。2018 年 3 月にＩＴＣ協会 が中小企業の視点で開発し、 2020 年 3 月にいままでの研究成果をとりこんだ最新版が公表された。本 研究会はこのツールを研究し、中小企業診断士のクライアントである中小企業に 導入のガイドラインを提案し、要請があれば導入の支援を行うことを目的とする。ITC 協 会届出組織 ITC 実践研究会と も共同研究する。税制上では３年後に受発注要件として取引の仕組みのなかでインボイスが義務化されることも、この研究テーマが中小企業にとっての必須要件となる。中長期的には ITC 協会のツール活用のみならず、EDI およびインボイス機能を搭載した研究会独自の販売管理ツールの開発と販売（テレワークを主体とする）を行い、奈良県診断士会としての独自ビシネスとして育ててゆく。
会員数	５名（追加会員を随時募集中）
開催頻度	２ヶ月に１回の集合研究。 他は会員毎にテーマを設定してテレワークで研究を行う。 ３月以降コロナ騒動により中断していたが９月より再始動する
入会申込み先	渡辺武久代表 fwkz5706@nifty.com

奈良活性化研究会	
活動内容	例会として、ゲスト講師による講演・セミナーを開催 します。 今年度は新型コロナウイルスの影響で、６月１３日に初めて WEB（ズーム）で開催しました。 内容は、渡辺副会長にズームの利用の仕方等について丁寧に解説して頂きました。双方向でのやり取りができ大変有意義なものとなりました。
会員数	約５０名
開催頻度	原則として隔月
入会申込み先	保延薦代表 honobe@tkcnf.or.jp

コラムの会	
活動内容	産経新聞コラム「経営と暮らしの羅針盤」の執筆
会員数	５名
開催頻度	都度開催、通常はネットでの交流
入会申込み先	竹下富彦代表 to-takesita@nifty.com 携帯：　080－5312－7841

新入会員による自己紹介

（２０２０年８月以降にご入会いただいた方）

ふりがな		なかむら まこと
氏名		中村 誠
連絡先	Tel	０７０－６９２９－９１６０
	Fax	
	Mail	nkmrshindanshi@gmail.com
勤務先または屋号		有限会社中村興産
登録年度		令和２年度
転入または重複の支部名		大阪府診断士協会
自己紹介		小・中・大規模製造業メーカーで現場改善から経営改善、M&A、事業継承などを中心となり実践してきました。 経験を活かし伴走型で支援していきたいと思っていますので、ご指導のほどよろしくお願いします。
特技		
趣味		ランニングクラブに所属し鴻池陸上競技場で走っています。目標サブ３！！

ふりがな		いさ よしひと
氏名		伊佐　嘉仁
連絡先	Tel	090-9616-1139、(0774-41-1222)
	Fax	0774-41-1223
	Mail	kakeisoudan@live.jp
勤務先または屋号		ＩＦＰ株式会社
登録年度		2018 年 4 月
転入または重複の支部名		京都府中小企業診断協会 大阪府中小企業診断協会 滋賀県中小企業診断士協会 （大阪府中小企業診断士会）
自己紹介		自宅・事務所が京都府宇治市(京都府南部)にあり、奈良、京都、大阪、滋賀どこに行くにも同程度の時間・距離です。そのため、診断士登録時から、機会があれば奈良県中小企業診断士会に入会したいと思っていました。このたびお声掛けいただき、入会させていただくこととなりました。 勤務先は、2014 年 11 月に保険代理店として独立・創業した会社です。現在も保険代理店は続けていますが、診断士登録後(2018 年 4 月以降)は経営コンサルティングを主たる事業としています。2019 年 2 月には経営革新等支援機関に認定されています。

	私は「経営後継者育成」を専門とするため、また、得意分野に偏りがちな知識を全般的に学び直すために（さらには、結果として、通信制高校卒業という最終学歴が大学院卒業に変わることを期待して）、昨年より大阪経済大学大学院に在学して経営後継者育成に関する論文を執筆中です。得意分野は、事業承継、人材育成、事業再生・計画策定です。診断士以外の保有資格として、キャリアコンサルタント、M&Aシニアエキスパート認定などがあります。これまでの営業経験から、営業分野にも自信はあります。 これからも、現在の多様化し、複雑化し、グローバル化し、急激に変化する時代に企業経営を行う経営者やその後継者への支援を行うために、常に努力し続けていく所存です。しかしどれだけ努力しても私一人で幅広い分野のすべてを深く身につけることは不可能ですので、多くの皆様のご協力をいただきながら、共に経営支援を行っていきたいと考えております。38 歳の若輩者ですが、ご指導いただけると幸いです。皆様、どうぞよろしくお願い致します。
特技	語れるようなものはありません
趣味	語れるようなものはありません

◆ 令和２年８月～１２月開催の予定行事

◆　診断士の日：１１月４日（水）２０：００～２０：３０
（ならどっとＦＭにてラジオ放送）

◆　理論政策更新研修
- 第１回：９月１２日（土）
- 第２回：１０月３日（土）

編集後記

▽ 会報「診断なら」2020 年夏号をお届けします。
原稿をお寄せいただいた皆さまに改めて御礼申し上げます。

▽ 毎日暑い日が続きます。充分にご自愛ください。

▽ 「診断なら」では、会員の皆さまの寄稿も積極的に紹介していきたいと考えています。
エッセイや時事論考など、随時お寄せいただければ幸甚です。　【本田】

〒630 - 8217
奈良市橋本町 3－1
きらっ都・奈良 3 階 302 号
Tel ：0742-20-6688
Fax：0742-20-6788
e-mail： jsmeca27@m3.kcn.ne.jp

一般社団法人
奈良県中小企業診断士会
http://www.nara-shindanshi.jp/